

平成17年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 教育プログラム及び審査結果の概要

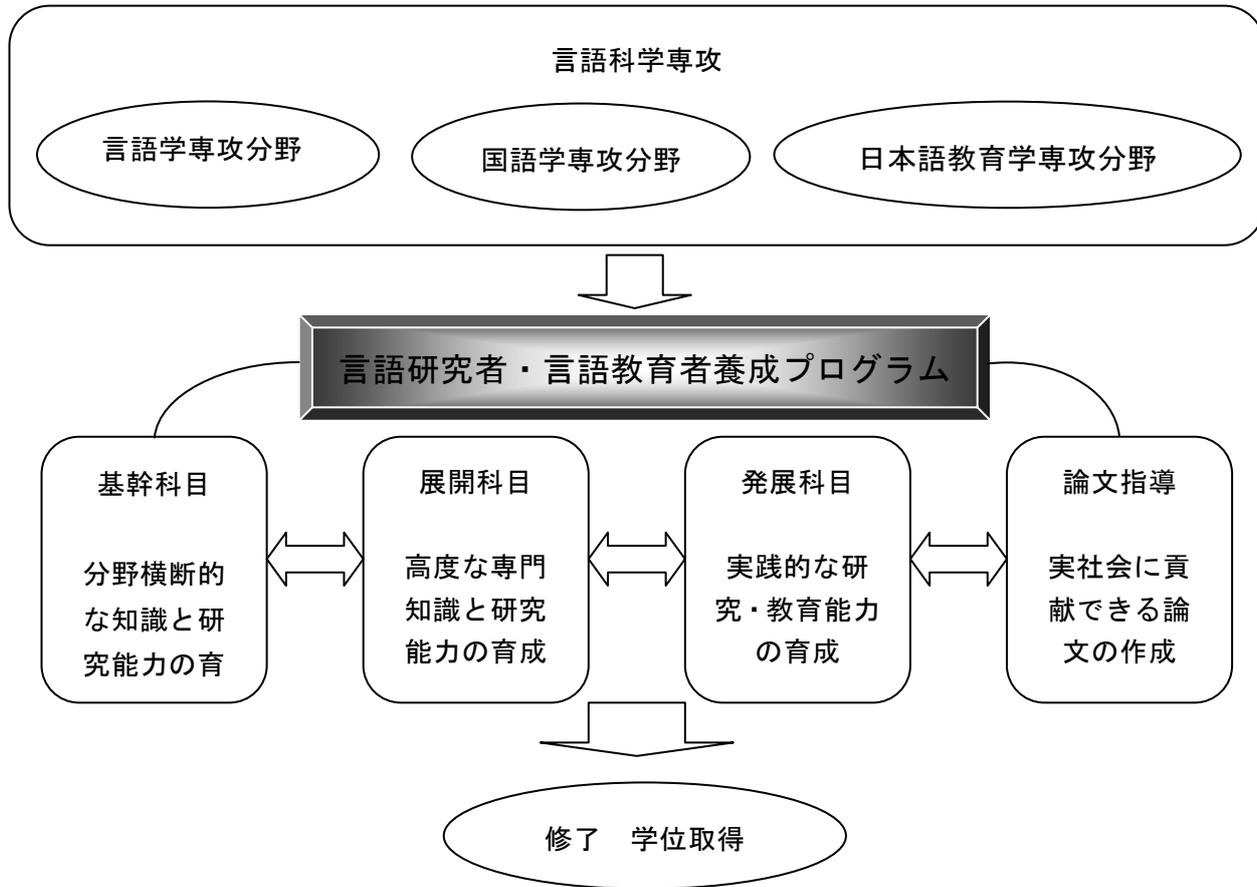
◇「1.申請分野(系)」～「6.履修プロセスの概念図」:大学からの計画調書(平成17年7月現在)を抜粋

機 関 名	東北大学	整理番号	a003
1. 申請分野(系)	人 社 系		
2. 教育プログラムの名称	言語研究者・言語教育者養成プログラム (非日本語母語話者を主たる対象とした取組み)		
3. 関連研究分野(分科) (細目・キーワード)	主なものを左から順番に記入(3つ以内) 言語学		
	主なものを左から順番に記入(5つ以内) (日本語教育、日本語学、言語学)		
4. 研究科・専攻名 及び研究科長名 (<input type="checkbox"/> 書きで課程区分を記入、 複数の専攻で申請する場合は、 全ての研究科・専攻を記入)	(主たる研究科・専攻名) 文学研究科 言語科学専攻〔博士前期課程、 博士後期課程〕	研究科長(取組代表者)の氏名 野家 啓一	
	(その他関連する研究科・専攻名)		
5. 本事業の全体像			
5-(1) 本事業の大学全体としての位置付け(教育研究活動の充実を図るための支援・措置について)			
<p>本学において、「<u>国際的に通用する研究者(エリート)養成</u>」は全学的最重要課題の1つとなっており、その恒常的実現を見据えて、「<u>国際高等研究教育機構(仮称)</u>」を設置することとしている。</p> <p>本機構の目指すべき方向性としては、①<u>先端融合領域教育組織の構築</u>、②<u>世界トップレベルの研究者の養成</u>、③<u>国際的質の保証体制の確保</u>を掲げており、具体的には、④<u>21世紀COEプログラムを基盤とした教育組織の新たな展開</u>、⑤<u>本学の特質を活用した教育組織の新たな展開</u>を図ることとしている。</p> <p>今回申請しているプログラムは、<u>外国人の立場からの日本語研究を推進すること、および日本語教育を進める人材を養成すること</u>に焦点を当てるものであり、本機構の目指すべき方向性や組織展開等において、一翼を担う重要な領域となっている。</p>			

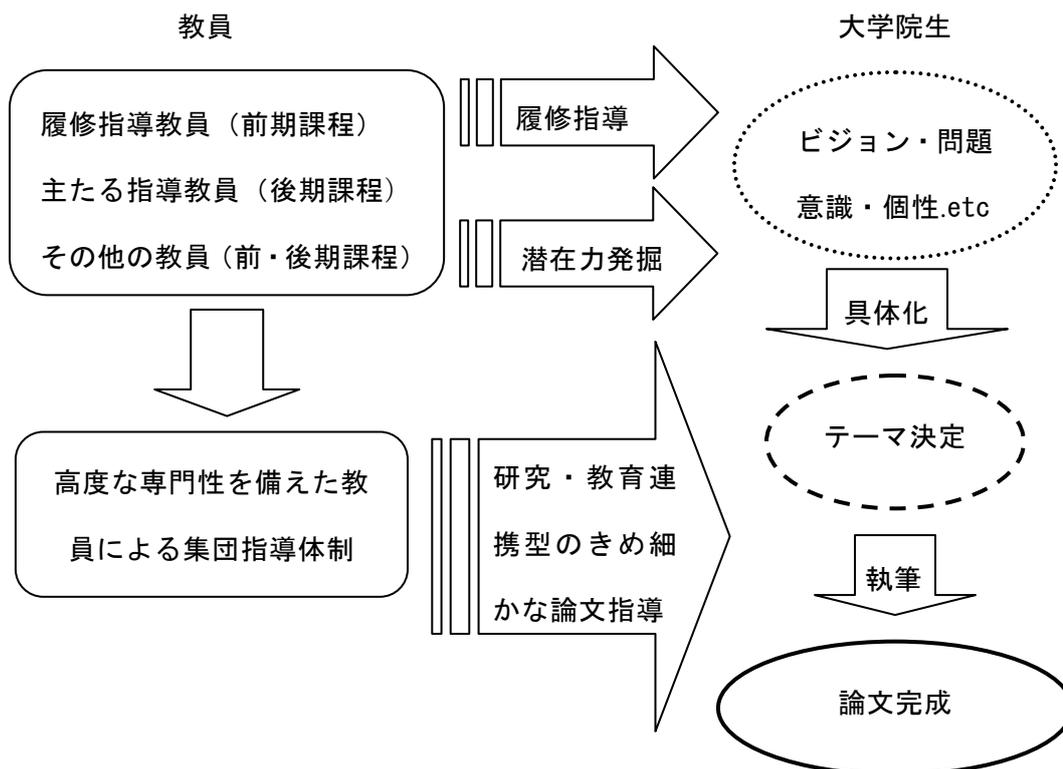
機関名	東北大学	整理番号	a003
<p>5-(2) これまでの教育研究活動の状況(現在まで行ってきた教育取組について)</p> <p>日本語教育学専攻分野は1994年より<u>継続的に大学院教育の科目として日本語教育実習を行ってきた</u>。この実習は日本語母語話者・非日本語母語話者の区別なく大学院修士課程1年生が履修するもので、学生がコースデザインと教壇授業を行うことを通して<u>創造性と実務能力を養成する実習</u>である。2000年からは韓国釜慶大学の大学生約20名を受入れ、一ヶ月弱の実習を行っており本年度も実施される。学部教育においても約2ヶ月間の実習が行われており、大学院生・学部生相互に授業見学・授業分析を義務づける等、<u>学部教育と大学院教育との連携</u>も行われている。また、大洋州・ロシア・韓国諸国の大学より<u>留学生の派遣・受入れに関する打診・申し出</u>を複数受けている。</p>			
<p>5-(3) 魅力ある大学院教育への取組・計画(大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)のための具体的な教育取組及び意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画について)</p> <p>今般申請する教育プログラムは、<u>言語科学専攻のこれまでの取組・実績を一つの拠点に集積し、活用・発展</u>させた5年一貫の大学院教育プログラムである。具体的には、言語科学専攻において<u>分野横断的な言語研究・言語教育プログラムを開講し、非日本語母語話者を主たるターゲットに据えた独創的で特色ある研究者・教育者の養成</u>を行う。意識的に日本語学習に取り組んだ非母語話者の視点と経験とを活かす形での日本語研究、とりわけ<u>日本語との対照言語研究</u>を中心に、<u>日本語学研究と日本語教育実践とを一つの教育プログラムの下に有機的に関連</u>させる。<u>東アジア・極東アジア・東南アジア・大洋州に力点を置き、交流協定締結校との連携を強化し、客員教員・非常勤教員の招聘・大学院生の受入れ・本プログラム履修者の派遣</u>を行い、母語・母国と日本語・日本との比較対照に特化しがちな日本語非母語話者の眼を<u>第3、第4の文化に触れさせる機会を提供</u>する。また、本プログラムを選択受講する者全員に<u>ジョブシャドウイング・インターンシップ・日本語教育実習への参加を義務づける</u>。これにより、高い日本語教育能力を備え持つ若手研究者を養成する。これらの取組を通して「<u>理論と実践</u>」を兼ね備えた「<u>創造性豊かで経験豊富な若手研究者・教育者の養成</u>」を行い、「<u>大学院教育の実質化</u>」を推進し、「<u>国際的な通用性・信頼性の向上</u>」を図り、「<u>現代の国際社会における新たなニーズ</u>」に対応できる「<u>創造性豊かで実地経験豊富な若手研究者・教育者の養成機能の強化</u>」を図り、大学全体としての「<u>世界規模での競争力の強化</u>」を達成する。</p>			

6. 履修プロセスの概念図

履修指導プロセス概念図



[研究指導プロセス概念図]



機 関 名	東北大学	整理番号	a003
<p data-bbox="165 199 588 232">< 審査結果の概要及び採択理由 ></p> <p data-bbox="165 295 1428 472">「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育取組に対し重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化（教育の課程の組織的な展開の強化）を推進することを目的としています。</p> <p data-bbox="189 490 491 521">本事業の趣旨に照らし、</p> <p data-bbox="189 535 1428 613">①大学院教育の実質化のための具体的な教育取組の方策が確立又は今後展開されることが期待できるものとなっているか</p> <p data-bbox="189 631 1225 663">②意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画となっているか</p> <p data-bbox="165 680 1428 857">の2つの視点に基づき審査を行った結果、当該教育プログラムに係る所見は、大学院教育の実質化のための各項目の方策が、優れており、期待できるとともに、教育プログラムが事業の趣旨に十分適合しており、その実現性も高く、一定の成果と今後の展開も十分期待できると判断され、採択となりました。</p> <p data-bbox="189 875 1206 907">なお、特に優れた点、改善を要する点等については、以下の点があげられます。</p> <p data-bbox="177 969 635 1001">〔特に優れた点、改善を要する点等〕</p> <ul data-bbox="165 1019 1428 1196" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="165 1019 1428 1144">・教育の対象の中心を「日本語を母語としない話者」に置いた点は、増大する留学生ニーズに適合し、国際性を高めるための新しい試みとして評価できる。また、「国際高等研究機構」を設置するなど、全学的な支援体制が整備されている点も評価できる。 <li data-bbox="165 1162 1378 1193">・なお、プログラムの実現に向けて、外国人教員の配置などの面でさらなる工夫が必要である。 			